

# 第20回 ITS 世界会議東京2013 結果報告

国土交通省 道路局 道路交通管理課  
高度道路交通システム (ITS) 推進室

## 1 はじめに

第20回 ITS 世界会議は、9年ぶりの日本開催となり、2013年10月14日（月・祝）から18日（金）にかけて、東京を舞台に開催された。今回は、交通渋滞や交通事故といった課題に対する従来のITSから、エネルギーマネジメント分野との連携、新たなビジネス機会の創出、東日本大震災の教訓を活かしたレジリエントな交通社会の実現などといった、社会全体の課題解決を目指す次世代ITSのフェーズに入るといった意味合いから“Open ITS to the Next”というコンセプトが掲げられ、様々な会合、イベント等が開催された。

会議には、アジア・パシフィック地域、アメリカ地域、欧州地域の計65ヶ国/地域から、ITS関係の行政担当者、学識経験者、民間企業を中心に、多くの参加者が来場した。今回は17日（木）、18日（金）を一般公開日とし、多くの市民の参加もあった。台風26号の影響により16日（水）午前中はITS世界会議全体が中止となったが、当初予想を大きく上回る20,691人（会議登録者3,940人を含む）の参加があったところであり、大盛況のうちに会議の幕を閉じた。



期 間：2013年10月14日（月・祝）～10月18日（金）  
（5日間）

場 所：東京国際フォーラム（14日の開会式のみ）  
東京ビッグサイト（15日～18日）

テーマ：Open ITS to the Next

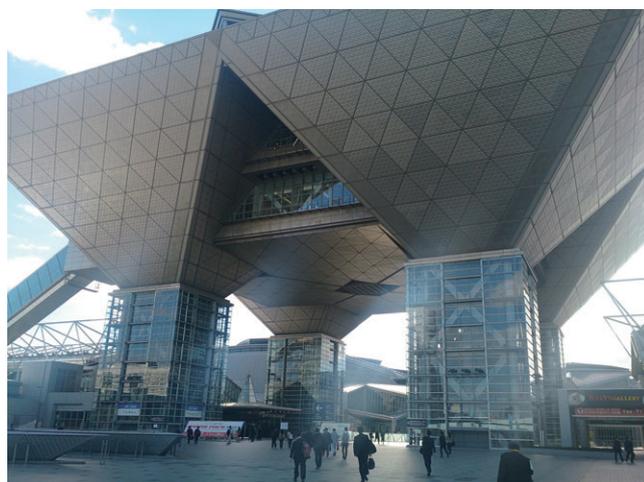
参加国/地域：65ヶ国/地域

参加者：20,691人（会議登録者3,940人を含む）

展示会：238社/団体（このうち日本からは114社/団体）

セッション数：232セッション

論文数：638編



図ー1 ITS世界会議の概要

写真ー1 会場外観（東京ビッグサイト）

## 2 ハイレベル交通政策ラウンドテーブル

開会式に先立ち、2010年釜山大会から継続的に行われている閣僚級の会合が開催された。これまでの会合は、政府機関における閣僚級の参加により開催されていたが、今回からは、会議の名称をハイレベル交通政策ラウンドテーブルとし、政府機関に加えて「『ITS世界会議東京2013』を成功させる議員の会」の国会議員も参加して行われた。日本はこれまでも議員の会からのご支援を頂きながらITSを推進してきており、その推進体制も成功要因の1つとして各国にアピールした。このハイレベル交通政策ラウンドテーブルでは、日本政府から古屋国家公安委員長のほか、野上国土交通副大臣が出席し、野上国土交通副大臣からは、日本の取り組みとして、「日本はこれまでも、VICSやETC等を世界に先駆けて実現してきた。交通事故、交通渋滞、環境悪化といった問題を解消するため、今後はビッグデータの活用や自動走行システムの開発等に取り組んでいく。各国が抱える道路交通問題の解消に向け、日本も最大限の努力をお約束する。」旨、発言が行われた。

各国からの発表を受け、本ラウンドテーブルでは、各国に共通する道路交通の課題の解決を図るため、官民の連携、標準化等の国際協調及び利用者ニーズに焦点を当てた取り組みの重要性等の認識が共有された。

日時：2013年10月14日（月・祝）13:30-15:00  
場所：東京国際フォーラム ホールD  
主催者：特定非営利活動法人ITS Japan  
テーマ：「持続可能な交通システム」「技術的、制度的革新」  
「メガシティの交通」「マルチモーダル交通」  
参加国：インド、インドネシア、ニュージーランド、タイ、アメリカ、オーストラリア、フィンランド、フランス、ベルギー、欧州委員会

図-2 ハイレベル交通政策ラウンドテーブルの概要



写真-2 ハイレベル交通政策ラウンドテーブルの様相

## 3 ITS 世界会議

### (1) 開会式

開会式では、よさこいの演舞によるアトラクションにより開始され、日本組織委員会渡邊委員長の開会挨拶に引き続き、開催国の政府代表として古屋国家公安委員長から、開催都市の代表として猪瀬東京都知事（ライブ映像）からそれぞれ挨拶が行われた。安部首相からの挨拶（ビデオメッセージ）では、ITSが政府の成長戦略の中で重要な位置づけにあること、日本をテストフィールドとして先端技術の開発を後押ししていくことなどの説明が行われた。

また、欧州地域、アメリカ地域、アジア・パシフィック地域の三極代表から挨拶が行われた。

その後、開会式のアトラクションとして、和太鼓による演奏が行われ、日本開催ならではの躍動感溢れる華やかな演出が行われ、国内外からの参加者を魅了した。

開会式の締めくくりとして、ITSの永年の功績を讃える功労者表彰が行われた。



写真-3 オープニングアトラクション



写真-4 挨拶する安倍首相（ビデオメッセージ）

## (2) 道路局展示コーナーオープニングセレモニー

2日目以降は、会場を東京ビッグサイト西ホールに移し、展示のほか、数多くのセッションやデモンストレーションが連日行われた。国土交通省は、道路局、自動車局がそれぞれ展示コーナーを設け、多くの来場者を集めた。

道路局の展示コーナーのオープニングにあたっては、テープカットによるセレモニーを実施した。主催者挨拶として中原国土交通大臣政務官からは、「飛躍的に向上しているIT技術を駆使し、安全で、エネルギー効率が良く、渋滞のない道路交通社会の実現を目指す。この世界会議を通して、世界各国との連携を深めつつ、ITSの活用を積極的に推進していく。」旨の発言が行われた。さらに、「『ITS世界会議東京2013』を成功させる議員の会」から綿貫民輔最高顧問、山本有二共同代表を来賓にお迎えし、お祝いのお言葉を頂戴した。



写真-5 道路局オープニングセレモニーの様様

## (3) セッション

ITS世界会議では、232のセッションが開催された。今回は、例年設定される企画セッションとしてプレナリーセッション（PL）、エグゼクティブセッション（ES）、スペシャルインタレストセッション（SIS）に加え、ホストセレクトセッション（HS）が設けられ、政策、技術、社会受容性など、様々な視点から発表が行われ、多角的な議論が展開された。

### ① プレナリーセッション（PL）

世界共通の課題解決に向け、世界3極（欧州地域、アメリカ地域、アジア・パシフィック地域）から、交通政策策定者、大都市・大都市圏の交通責任者、産業界・学界のオピニオンリーダー等が参加

し、将来の住みよい社会に向けて洞察に満ちた講演や議論が行われた。

最初に開催されたプレナリーセッション1では、国土技術政策総合研究所の塚田高度情報化研究センター長が登壇し、ITSとインフラ整備を同時に進めることでインフラ機能が最大限に発揮され相乗効果が得られるなどの発言があった。



写真-6 プレナリーセッション1の様相

## ② エグゼクティブセッション (ES)

官・学・民の有識者が、自動運転、協調型システム、衛星測位技術、交通安全への取り組みといった注目が集まるテーマについて、政策や戦略などの議論が行われた。

日本政府からは、ITS 関係省庁の室長級等がテーマ毎に登壇し、多岐にわたる ITS 分野について議論が行われた。

道路関係では、国際連携のあり方について、国土交通省道路局の奥村 ITS 推進室長が登壇し、米国、欧州の政府関係者との議論が行われる予定であったが、折しも台風 26 号が関東地方に接近していたことから、16 日(水)午前中は ITS 世界会議全体が中止とすることが決定され、残念なことに、当該セッションも中止となった。

## ③ スペシャルインタレストセッション (SIS)

各地域の専門家が研究・実用段階の ITS に関する個別のテーマについて深く掘り下げ、最新の技術や施策に関する議論を行った。

道路関係では、国土交通省道路局がオーガナイザーとなり「日米欧三極の協調によるプローブデータの将来的な研究開発」をテーマに議論が行われた。当該セッションでは、日本から ITS スポットの導入や収集されたプローブデータの活用事例を紹介した。欧州からはプローブデータの研究開発を推進するワーキンググループの設立、米国からはプローブデータの実験環境の整備等について紹介があり、プローブデータの活用について世界的に関心が高まっている状況が伺えた。また、普及展開にあたっての課題や国際協調のあり方について活発な議論が行われた。

## ④ ホストセレクトッドセッション (HS)

今年のホスト地域であるアジア・パシフィック地域が発表テーマを選定し、情報発信することで海外に向けたアピールを行うことを目的に設けられた。

道路関係では、国土交通省道路局がオーガナイザーとなり「高速道路における自動運転」をテーマに議論が行われた。当該セッションでは、日本政府の自動走行システムに関する戦略やこれまでの取り組みなどを紹介した。また、欧州からは、走行状況にあわせて、ドライバーと車両がそれぞれ操作を受け持つ自動運転の実現を目指している旨発言があり、米国からは、路車協調技術と自動運転技術を融合した協調型の自動運転の実現を目指している旨発言があるなど、活発な情報交換が行われた。

#### (4) 展示会（10月15日（火）～18日（金））

世界各国から238社／団体が出展し、日本からはITSに関連する114社／団体が出展した。展示会場では、ITSに関連する機器サプライヤー、地図関連企業、高速道路会社等が多数出展するとともに、自動車メーカーも自動運転技術に関する展示等に力を入れていたことから、非常に活気のある展示会場となった。また、17日、18日は一般公開日としたこともあり、最終日まで、多数の来場者により賑わいを見せた。



写真－7 道路局展示コーナーの様子

今回の展示では、顔認証や画像解析等の先端技術を用いた次世代システムの紹介や自動運転技術に関する展示等が数多く行われた。さらに、近年のスマートフォンの普及から、情報提供ツールとしてスマートフォンを活用したシステムも数多く紹介されていた。

国土交通省道路局展示コーナーでは、スマートウェイに関する各サービスの取組状況を大画面映像と展示パネルを用いて紹介するとともに、ドライビングシミュレーターを用いたITSスポットの体験コーナーも設けた。道路局展示コーナーでは、15日（火）から18日（金）までの4日間で約2,000人の来場者を記録した。

#### (5) 国土交通省道路局シンポジウム

17日（木）には、「日本のITSが切り拓く道路交通の未来」と題して、アトリウムスペースにおけるシンポジウムを開催した。コーディネーターにモータージャーナリストの竹岡圭氏、パネリストに元F-1ドライバーの片山右京氏、バルセロナオリンピック金メダリストの岩崎恭子氏を迎え、国土交通省道路局の池田道路交通管理課長を加えて行われた。

シンポジウムでは、20世紀の道路交通の「3つの負の遺産」である事故・環境・渋滞に関して、ITSの最新動向を踏まえ、これらを解決するための活発な意見交換が行われた。約400名の皆様に聴講頂き、盛況であった。



写真－8 国土交通省道路局シンポジウムの模様

#### (6) ショーケース

ショーケースは、東京ビッグサイトの屋上展示場、屋外展示場や首都高速道路等の公道を使用して実施された。ショーケースの予約枠は事前申し込みと開催期間の申し込みに分けて行われたが、連日、予約で埋まる状況であった。

国土交通省道路局では、官民連携の国家プロジェクトの一環として、以下の3つのサービスの走行体験が行えるショーケースを実施した。

### ① ITS スポットサービス

現在、全国の高速度路上に展開している ITS スポットサービスのうち、3つの基本サービスである「ダイナミックルートガイダンス」「安全運転支援」「ETC（自動料金収受システム）」について、首都高速道路のモデルコースにてサービスを体験して頂いた。



写真-9 ショーケース「ITS スポットサービス」実施風景

### ② 高速道路サグ部の交通円滑化サービス

ACC/CACC（自動で車速や車間制御を行う機能を持った装置）を活用した路車間・車車間連携による交通円滑化走行について、ACC/CACC 搭載車両に乗り、首都高速道路のモデルコースにてサービスを体験して頂いた。

### ③ モバイル通信と ITS スポットの協調サービス

スマートフォンに ITS スポットから情報提供を行う新たな交通情報サービスについて、東京湾アクアラインを経由するモデルコースにてサービスを体験して頂いた。

## (7) 閉会式

最終日となる 10 月 18 日には閉会式が行われた。日本組織委員会渡邊委員長の閉会挨拶に引き続き、参加者実績の報告や優秀論文の表彰式、次回以降の ITS 世界会議開催地の代表者による PR スピーチが行われた。また、閉会式の最後には、開催地から次回開催地へシンボルの地球儀を渡すセレモニー「パッシング・ザ・グローブ」が行われ、東京から次回開催地のデトロイトへバトンタッチが行われ、閉会式を締めくくった。



写真-10 閉会式の模様

(ITS 世界会議日本組織委員会より提供)

## 4 おわりに

ITS 世界会議は今年で 20 回目を迎えた。最先端の技術が実際に体験できるショーケースや多角的な議論を行うセッション等が定着し、ITS に関連する専門家等が定期的に情報交換するための世界的なイベントとして定着している。また、一般公開日が設けられ、国内外の一般の方々にも最新の ITS の活動を紹介する絶好の機会となった。

ITS は、情報通信技術の飛躍的進歩により高度化、高精度化が進み、今後も安全で快適な道路交通を実現することが期待されている。

今回の世界会議では、とりわけ、路車、車車間等の協調型システムや自動運転技術が大きく取り上げられた。今後も暫く同様の傾向が続くものと考えられるが、これらの最新技術を活用した新たな展開にあたっては、世界の専門家等が政策、技術等の最新情報を持ち寄り、国際協調を図りつつ進めていくことが重要であることを実感した。

今後とも、この ITS 世界会議が発展的に継続され、最新技術の実用化や一般の方々の参加も得て、政策、技術、社会受容性等の多岐に渡る課題が解決されていくことを期待したい。